

# 黒毛和種子牛の適正飼育管理による 肥育期間短縮と効率的肉牛経営の確立

浅田 勉 氏 (56歳)

群馬県畜産試験場  
研究調整官



## 1 業績の概要

### 背景

子牛市場では発育がよく、体格(見栄え)のよい牛が高値で取り引きされる傾向があり、濃厚飼料を多給して育成された過肥な子牛(写真)が多い。そのため、濃厚飼料多給で育成された子牛は、肥育農家で導入後1~2ヵ月粗飼料を主体に管理する、いわゆる飼い直しを行った後、肥育飼料に切り替える管理を行っている。これは無駄な飼育管理であり、肥育期間短縮の大きな妨げとなっている。

### 研究内容・成果

- 1) 適正に管理された子牛の場合(標準区)、肉質等級が4等級以上の割合が75%と高かったのに対し、過肥な子牛(過肥区)は、25%と肉質も劣ることを明らかにした(表1)。
- 2) 過肥な子牛を肥育した場合、販売金額(収入)から飼料費(経費)を差し引いた金額が適正に管理された子牛に比べ約84,000円少なくなり、収益性も低下することを明らかにした。
- 3) 育成段階で適正に管理された子牛を8ヵ月齢から肥育を開始し、26ヵ月齢で出荷しても黒毛和種去勢牛の全国平均値(日本食肉格付協会)と比較しても遜色なく、26ヵ月齢出荷(4ヵ月短縮)が十分可能であることを明らかにした(表2)。

以上のことから、育成期の飼育管理を適正にすることで、肥育期間が短縮でき、さらに産肉性や枝肉格付成績のよい牛肉を生産でき、効率的な肥育経営が確立できることを明らかにした。

表1 格付成績

項目	標準区 (4頭)	過肥区 (4頭)
枝肉重量(kg)	465.0	483.0
胸最長筋面積(cm <sup>2</sup> )	64.8	58.5
ばらの厚さ(cm)	8.1	7.8
皮下脂肪の厚さ(cm)	2.6 B	3.9 A
歩留基準値	75.2 a	72.8 b
肉質等級	4.2	3.0
脂肪交雑(BMS No)	7.0	5.0
肉色(BCS No)	4.0	4.0
脂肪色(BFC No)	3.0	3.0
4等級以上の割合(%)	75.0	25.0

A,B:P<0.01 a,b:P<0.05

表2 格付成績

項目	4等級以上 (%)	枝肉重量 (kg)	胸面積 <sup>2)</sup> (cm <sup>2</sup> )	ばら厚さ (cm)	BMS No <sup>3)</sup>
26ヵ月齢出荷	100.0	499.8	72.2	8.3	7.5
30ヵ月齢出荷	100.0	574.8	70.5	8.8	9.3
全国平均 <sup>1)</sup>	79.7	490.8	60.8	8.0	6.6

1) 平成28年1月~12月黒毛和種去勢牛全国平均(日格協)

2) 胸最長筋面積

3) 1から12までであり、数値が大きいほど脂肪交雑が良好



写真 過肥な子牛

(尾の付け根に脂肪が蓄積)

### 普及状況

育成期の管理を適正にすることで、肥育期間が短縮でき、さらに産肉性や枝肉格付成績のよい牛肉を生産でき、効率的な肉牛経営が確立できることを研究成績報告書や飼料管理マニュアルの作成等を通じて広く普及している。

## 2 評価のポイント

子牛市場での有利販売を目的とした濃厚飼料多給による過肥な子牛生産と肥育期間短縮の課題について全国に先駆けて取り組み、客観的な成績を繁殖農家及び肥育農家に示したことにより、肥育期間の短縮や効率的肉牛経営の確立に波及効果が見られたことを高く評価した。

【連絡先】群馬県畜産試験場

(住所: 〒371-0103 群馬県前橋市富士見町小暮2425 TEL: 027-288-2222)